

平成30年度 自己評価結果と学校関係者評価

1 教育目標・教育方針

評価項目	学校職員の自己評価 ○…よい点 ▲…課題 ⇒…改善策	
1 教育目標・教育方針の具現化を組織として進めている。 【1,2,3】	<p>○教育目標を子ども達に分かりやすく伝えた。</p> <p>○学年の発達段階に応じて、園長の考える教育方針をもとに学年目標を明確にし、具現化を図っている。</p> <p>○学期毎に子ども達に向けて目標が具体的に示された。それを受け、各教職員が各学級で具現化をしている。</p> <p>○職員全体で共通理解し、目標に向かって進めた。</p>	
2 それぞれの教育活動を効果的に推進していくための責任や役割について理解している。 【4,5】	<p>○教師間の意思疎通はよくとれていた。</p> <p>○クラスの対応など、細かいところまでその都度確認が取れていた。</p> <p>▲必ずしも全職員の意見や考えが交流できたとは思わない。 ⇒<u>経験のある教職員の意見と経験の浅い教職員の意見、見識の違いを乗り越え、「園児にとって何がよいか」という視点でお互いに意見を出し合える環境づくりを行っていく。職員会議、学年会、分掌会議などで、多くの考え方を出し合い、合意形成を図る。</u></p> <p>▲担任と補助職員の意思疎通が十分でなかった。 ⇒<u>担任から各クラスの補助員に伝達することを共通理解（本年度より実施）。</u></p>	
職員の自己評価 A	学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・時代に合わせ、新たな教育目標を設定することも必要と考える。【次年度の園長の経営案で検討する。】 ・意思疎通で横の繋がりは難しい問題である。【世代差を超えた共通理解、共通実践の気風を醸成する。】 ・経験のある先生と経験の浅い先生の子どもに対する接し方の違いがある。【教師一人一人の良さを広め共有する工夫を行う。】
関係者による評価		
2.7…A評価は適切		

2 教育課程・指導計画

評価項目	学校職員の自己評価 ○…よい点 ▲…課題 ⇒…改善策	
3 幼稚園は、教育目標の具現化を目指す教育課程を編成し、教育活動の充実改善を図っている。【6,7】	<p>○カリキュラムがあるので、保育しやすい。</p> <p>○小さなクラスはゆとりある教育活動（園生活に慣れ、楽しむ）を行えた。</p> <p>▲カリキュラムをこなすことでいっぱいとなり、ゆとりがなかった。 ⇒<u>カリキュラムの編成、見直しを「目標」の視点で見直し、園児の実態を踏まえながら重点化し、改善を図る（すでに本年度の研修で実施済み）。</u></p>	
4 幼稚園は、笑顔あふれる幼児を育てるために、幼児一人一人の実態に基づいた教育活動の工夫・改善に取り組んでいる。 【9,10,11】	<p>○本年度、子ども達の自由な造形活動・表現活動の機会をとり、学年を越えて交流が広がった。</p> <p>○子ども達一人一人の成長が見られた。</p> <p>○本園の特徴である鼓笛を保護者に見ていただく機会をつくり、好評の声をいただいた。 ⇒平成31年度、鼓笛を「こぐま（未就園クラス）運動会」に位置づける。</p> <p>○特別支援教育の視点での教育活動や環境構成をさらに進めていきたい。</p> <p>▲サツマイモ掘り、親子遠足、中山盆踊りの見直しが必要である。 ⇒いずれも園児、保護者、地域にとって意義があるので今後も継続する。</p> <p>▲補助職員として、子ども一人一人の状況を知りたい。 ⇒担任が窓口になり、親の要望や希望を補助職員に伝える（本年度より実施）。</p>	
職員の自己評価 A	学校関係者による評価内容	<ul style="list-style-type: none"> ・立派にできている。 ・カリキュラムの多さに問題はないだろうか。【平成30年度中に、見直し改善】 ・私立幼稚園なので、さらなる特徴を保護者と協議し、とねがわ幼稚園ならではの教育を推進して欲しい。【次年度に生かしていく。】 ・保護者の意見を取り入れながら教育活動を行ってくれている。
関係者による評価		
2.7…A評価は適切		

3 教職員の資質・教育環境

評価項目	学校職員の自己評価 ○…よい点 ▲…課題 ⇒…改善策	
5 幼稚園は、教員の指導力向上に計画的組織的に取り組んでいる。 【13,14,15,16】	○夏期研修により自己の資質を高めることができた。 ○学び続けることが何よりも大切である。本年度は「先輩教師から学ぶ」シリーズを数回発行し、質の高い保育を広めた。	
6 幼稚園は、環境美化に努めるとともに、安全で機能的な教育環境づくりを進めている。 【17,18,19】	○子どもの実態から興味あること、好きなことが広がるような環境作りができた。 ▲物的、空間的な環境構成については改善が必要。子ども達が自発的に活動できる環境作りを進めたい。 ⇒ <u>本園に足りない環境(自然)をカリキュラムの中で実現(近くの土手などに遊びに行くなど)する。各教室の教材庫を園児が自由に活用できるようにする。</u> ▲絵本の部屋をより活用できるようにしたい。 ⇒ <u>平成31年度は、自由閲覧の時間を設ける。</u>	
7 幼稚園は、園児の安心安全な生活の実現のために組織的に対応できる体制をつくっている。 【12, 20, 26】	○年5回の避難練習を行い、安全に行動できる子どもが育っている。 ○毎朝、園児の登校前の掃除と安全確認を行っている。 ▲安全点検後の事後処理が職員全体に伝わっていない。 ⇒ <u>安全点検後、園長・副理事長が確認し、重要項目は職員に周知する。</u> ○バスの運行については、複数の目で確認する機会をもつことが大切である。 ▲万が一、バス運行中の事故が起きた場合の対応を確認したい。 ⇒ <u>バス非常事態訓練を実施する。バス事故マニュアルを作成する。</u>	
職員の自己評価 A	学校関係者による評価内容	<ul style="list-style-type: none"> ・躰などについては、園だけでは出来ないことを保護者にもしっかり伝えていく必要がある。 ・登園前、降園後の教室の点検、清掃など環境整備にはとてもよくやっている。
関係者による評価		
2. 7…A評価は適切		

4 家庭・地域との連携

評価項目	学校職員の自己評価 ○…よい点 ▲…課題 ⇒…改善策	
8 幼稚園は、家庭・地域社会と連携協力し、教育力の向上及び幼児の問題解決を図っている。 【21,22,23,24,25】	○園だよりやホームページでとねがわ幼稚園の教育を広報した。 ○近隣と連携しながら教育活動を進めている。 ○預かり保育の教育内容が充実してきた。 ⇒平成31年度は夏期休業中の登園日を1日増やす。長期預かり保育前に、保育内容の確認を教務主任を中心に行う。 ○こぐまサークル(未就園児預かり保育)が充実している。 ○園内の事故対応が、園長を中心に素早く対応している。	
職員の自己評価 A	学校関係者による評価内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園長先生の園児に対する姿勢は見ていても、とても気持ちがよく、とてもありがたい。 ・先生方の熱心な姿勢には常に感激しています。園長ブログも幼稚園の様子が見え、家での会話のもとになっている。
関係者による評価		
3…A評価は適切		

5 総合的な評価結果

結果	理由
A	・連絡会、主任会、職員会議、打ち合わせなどにより、取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価し、取組状況を話し合うことを通して、本園としての方針を明確にすることができた。